

ICT分野の研究開発人材育成に関する研究会
第5回ワーキンググループ 議事要旨

1. 日時 平成19年3月20日(火) 14:00~16:00

2. 場所 総務省 共用1101会議室

3. 出席者

(1) 構成員(50音順、敬称略)

浅見徹(東京大学)主査、阿部真(株式会社国際電気通信基礎技術研究所 代理:内田国昭)、井上淳(株式会社東芝 代理:鎌形映二)、梶浦敏範(株式会社日立製作所)、加藤洋一(シャープ株式会社 代理:富士谷久芳)、神崎洋(トヨタ自動車株式会社)、北村徹(三洋電機株式会社)、北村守(日本電信電話株式会社)、鹿田實(日本電気株式会社)、篠永英之(株式会社KDDI研究所 代理:石川博泰)、関口潔(独立行政法人情報通信研究機構)、高橋雅則(松下電器産業株式会社)、田原俊幸(沖電気工業株式会社)、仲川史彦(YRP研究開発推進協会)、中嶋信生(電気通信大学)、松山浩司(三菱電機株式会社 代理:清水直樹)、三浦章宏(株式会社富士通研究所 代理:矢野倫正)、横井正紀(株式会社野村総合研究所)

(2) 総務省

児玉技術政策課長、門馬技術政策課室長、平技術政策課技術企画調整官

4. 議事概要

(1) 前回議事要旨の確認

(2) 議事

第2回研究会での主な意見

ワーキンググループでの検討状況に対する第2回研究会での主な意見と、それを受けての論点整理、及び中堅企業における研究開発人材育成について資料WG5-2から資料WG5-4に基づき説明が行われた。主な意見は次のとおり。

- ・ 国としてはビジョン型の人材育成を目指すべきであるが、言葉の定義をはっきりさせておく必要がある。
言い方としてはいろいろあるが、「事業創出型」という言い方がよい。これは、大きな新規の事業分野、事業領域を創出することを意味している。
事業創出というとベンチャー的なイメージもあるので、新しい事業領域を生み出すということで、「新規事業分野創出」くらいではないか。
- ・ 研究開発プロジェクトを活用した人材育成の場合、企業の利害関係を越えてプロジェクトに集結するためには、そのプロジェクトテーマは各企業にとって非競争領域であるテーマとなる。但し、それは現時点ではまだ事業分野として進出する段階に至っていないというだけで、将来的には競争分野となりうるテーマであると思われる。
一方、あまりにも先進的な研究になりすぎると、研究に対する緊張感、競争が働きにくくなり、人材育成としては効果が薄れてしまう。

関係機関の役割

関係機関の役割について、資料WG 5 - 5に基づき説明が行われた。主な意見は次のとおり。

- ・ 研究開発人材を効果的に育成できるように、修羅場が経験できるような研究開発プロジェクトを産学官連携で行っていく必要がある。プロジェクトにふさわしいテーマの選定や、優秀な指導者、リーダを招へいするのは困難な面もあると考えられるが、産学官が一致協力してオールジャパンとして進めていく必要がある。
- ・ 学生の育成が中心だった従来の連携大学院の仕組みに加えて、社会人を受け入れて育成、学位取得なども目的とする新たな連携大学院の枠組みを作ることも必要である。

研究開発人材育成体制

これまでの議論を踏まえ、人材育成方法の案について、横井構成員から提案があり、資料WG 5 - 6に基づき説明が行われた。主な意見は次のとおり。

- ・ 従来の研究開発プロジェクトも人材育成の面がなかったわけではないが、今後は人材育成も目標、成果のひとつとする研究開発プロジェクトが必要である。人材育成も目標とする研究開発プロジェクトでは、人材育成が効果的に行われるために、従来のプロジェクトにはない工夫が必要である。ある手法、プロセスがあるから人材育成ができると主張できる確固たるものがないと、説得力がない。そこを具体的に議論する必要がある。
- ・ プロジェクトの特徴を打ち出せるようにするべき。例えば、研究開発プロジェクトの中でOJTが行える構造、組織になっているなど。
プロジェクトの遂行と講座形式の技術教育が組み合わせて行われるということも考えられる。例えば、プロジェクトの進捗段階に応じて、必要な技術教育を行うというもの。その教育は場合によって非常に先進的な、またICT分野の周辺を広範囲に包含するような分野、内容になることも想定されるので、全国、場合によっては海外を含めて最適な人材を先生として招へいすることが考えられる。
- ・ 具体的なテーマが見えていないから具体的な議論ができないと思う。より具体的な議論をするために、いくつかプロジェクトテーマ、運営体制などの案を構成員の皆様に出していただきたい。それらの案をもとに具体的な議論を行いたい。

その他

研究開発プロジェクトについて具体的なテーマなどに関してもう少し議論が必要なため、報告書案のとりまとめの前に、WGを1回追加で開催することが確認された。